

来て 見て 遊んで つながろう



完成したウォールパズルアート

「令和6年度地域支え合い啓発イベント」が9月28日、新宿区生活支援体制整備事業の一環として桜美林大学の協力を得て、同大新宿キャンパスで開催されました。

イベントには多くの団体が参加しました。来場者は昨年500名でしたが、2年目の今年は700名以上になりました。「つながりマルシェ」には無農薬野菜や貴重な新宿産のはちみつ、手作りお菓子や小物・雑貨が並び、特に無農薬野菜はあっという間に売り切れました。

目玉商品としてもっとたくさん用意してあれば、野菜高騰に悩む多くの区民、主婦に喜ばれたのではと感じました。

イベントの狙いについて、主催した新宿区福祉部地域包括ケア推進課の袴田雅夫課長は「世代を超えた地域支え合いの活動の仕組みを作ろうと昨年からはじめました。高齢者も、支えられる側、受ける側から、自らも支える立場に立って顔が見える、昔の長屋のよう



インタビューに応じる
袴田課長(左)

な関係を作りたいと考えています。地域支え合い活動が高齢者だけでなく若者にも浸透してほしいと思っています。災害が発生したときなどに『あのおばあちゃんどうしてるかな』と思い出せる関係性を築きたいのです」と話しています。

イベントの最後には参加者がピースを作り、完成させたウォールパズルアートが披露され、一人一人は小さいけれどみんなが力を合わせれば大きな力になるという象徴的な作品で締めくくられました。